

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520393

研究課題名 (和文) 語彙的統語範疇決定のメカニズムを探る：日・英語比較研究

研究課題名 (英文) In Search of the Origins of the Lexical Syntactic Categories:
a Comparative Study of Japanese and English

研究代表者

高橋 眞理 (TAKAHASHI MARI)

京都産業大学・外国語学部・教授

研究者番号：20247779

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：動詞、名詞、日本語、英語、Distributed Morphology、形態素、意味解釈、音形

1. 研究計画の概要

この研究の目的は、英語と日本語を詳細に分析し、比較することにより、

- (1) 動詞、名詞、そして形容詞という語彙的統語範疇は、普遍文法においてどのように定義づけられるものなのか、
- (2) 各「語彙項目」はどこにどのような情報を与えられてリストされており、その知識はどのようなメカニズムで習得されるのか、
- (3) 語彙的統語範疇の「語彙化」のされ方は個別言語間でどのように異なりうるのか、また、英語と日本語での語彙化のされ方の違いはどのような要因によるものなのか、を明らかにすることである。

2. 研究の進捗状況

下記(1)～(4)の作業項目に取り組み、それぞれについて(5)～(8)の結論を得た。

- (1) 統語・形態論の文献調査、諸理論の比較検討を行い、文法の全体的構成に関する理論を選ぶ。
- (2) 動詞と名詞の意味の違いを特定する。
- (3) 日本語の動詞・動詞句とその名詞化の分析、対応する現象の日・英語比較を行う。
- (4) 英語の動詞句削除の許可条件を特定し、

日本語に同様の現象が存在するかどうかを調べる。

- (5) ① Distributed Morphology 理論を採用する。
- ② いわゆる「動詞」と「名詞」は、語根($\sqrt{\quad}$)と文法素性「v」と「n」とがそれぞれ結合したものであり、この2つの統語範疇が普遍的に存在するのは、
 - a) 普遍文法の文法素性リストの中にvとnが含まれている、
 - b) 語根単独では意味解釈も音形(VI)挿入も受けられない、
 - c) 命題内容を伝えるためには文の構成素として「動詞句」と「名詞句」が不可欠である、
 ことによる。
- ③ [$\sqrt{\quad} + \{v/n\}$]に特別な地位を与える必要があり、この結合が Chomsky (2001)の意味での「phase」を形成すると仮定する。
- (6) ① 動詞は Davidsonian event variable を含む function であり、名詞は kinds の固有名である。
- ② 個々の [$\sqrt{\quad} + v$]に関して、いわゆる「内部項」選択に関する情報が指定されている。
- (7) ① 日本語の自由動詞(FV)は統語構造

末端部[√+v]に挿入される VI、すなわち動詞の音形であり、語根のそれではない。

②右端で FV が発音される名詞句は FM を主要部とする動詞(句)の名詞化であり、その主要部 n に挿入される VI は音形を持たない。

(8) ①日本語でも英語と同じ条件で動詞句削除が許可される。

②日本語で動詞句削除によって文の主述語である FV が削除されることは、FV が動詞であることを強く示唆する。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

動詞、名詞、形容詞の語彙的統語範疇のうち、前二者については研究成果が多く得られたが、形容詞に関する研究が遅れている。

語彙的統語範疇習得に関する研究が遅れている。

(理由)

大人の文法の動詞と名詞の分析に関する論文だけでも膨大な数におよび、これらを取捨選択し、重要であると思われる研究成果を比較検討することに予想外に多くの時間を要したことによる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 動詞(句)と名詞(句)の統語構造と意味解釈、そしてそれぞれの主要部が音形を与えられるメカニズムの解明が、形容詞(句)に関して有意義な提案をするための必要条件となる。まだまだ分析すべき現象が多く残っているので、引き続き動詞(句)と名詞(句)に焦点を当て研究を続け、その成果に基づいて形容詞(句)の性質について可能な提案を行う。

(2) 最終年度は、大人の文法についてこれまでに得られた研究成果から語彙範疇習得過程についてどのような予測がたてられるのかを検討し、文献調査と幼児の発話記録の分析によってその検証を試みる。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)